

岩手県金融経済概況（平成 25 年 9 月）

1. 概 況

県内経済は、回復している。

最終需要の動向をみると、個人消費が底堅く推移しているほか、公共投資、住宅投資が増加している。設備投資では、当初計画を上方修正する動きがみられる。

鉱工業生産は、緩やかに持ち直している。

こうした中、雇用、所得環境は、引き続き改善している。

2. 最終需要

(1) 個人消費

百貨店売上高（9 月）は、一部店舗の改装もあって前年比でマイナスとなった。

—— 品目別では、衣料品、飲食料品が前年を若干上回ったものの、身回品、家庭用品、雑貨等は前年割れとなった。

新車登録台数（9 月）は、エコカー補助金の受付終了の影響が薄らぐ中、新車投入効果もあって前年対比でプラスとなった。

(2) 建設投資（公共投資、設備投資、住宅投資）

公共投資（公共工事請負額；9 月）は、震災復旧関連工事を中心に増加している。

民間設備投資（平成 25 年度計画；短観ベース）は、製造業、非製造業とも高水準の前年度を下回る計画ながら、6 月調査対比では、下期計画を大幅に上方修正する姿となっている。

—— 製造業では、加工業種の一部で需要持ち直しを眺めた能増投資に踏み切る先がみられるほか、非製造業でも上方修正する動きが目立っている。

住宅投資（新設住宅着工戸数；8 月）は、震災関連建替需要のほか、消費増税前の駆け込み需要もあって、増加テンポを高めている。

こうした状況下、県内の官民建設工事全体の出来高（建設総合統計；8 月）は、高い伸びを続けている。

3. 生産動向

県内鉱工業生産指数(7月;季調済前期<月>比)は、2ヵ月連続でプラスとなった。

—— 品目別では、震災関連需要を主因に窯業・土石製品が増加基調を維持しているほか、外需持ち直し等を背景にウエイトの大きい一般機械、電子部品・デバイスで持ち直しの動きがみられている。

4. 雇用、所得の動向

雇用情勢は、改善している。

有効求人倍率(8月)は1.04倍となり、7月(1.03倍)対比で更に改善した。

雇用保険被保険者数(民間企業中心の全数調査;8月)も高水準を維持している。

名目賃金指数(7月)は、3ヵ月連続して前年を上回った(平成25年5月+2.8% → 6月+5.0% → 7月+1.8%)。

こうした状況下、雇用者所得(県内合計値;7月)は、3ヵ月連続で前年比プラスとなった(平成25年5月+2.0% → 6月+4.4% → 7月+1.4%)。

5. 企業倒産

企業倒産(9月)は、3件、57.3億円となった。

—— 2013年度上期は、18件、83.1億円となり、件数ベースでは、前年(21件)を下回ったが、金額では、前年(40.8億円)を上回った。

6. 金融面の動向

県内金融機関の預金は、個人、法人が前年を上回って推移しているほか、公金も前年比高い伸びを続けていることから、全体でも前年を上回った。

県内民間金融機関の貸出は、緩やかな増加を示している。

この間、貸出約定平均金利は総じて低下傾向にある。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622 (代) <http://www3.boj.or.jp/morioka/>